

学校法人滋慶学園 専門学校 東京ウェディングカレッジ
平成 28 年度学校関係者評価委員会 結果報告書

日時 平成 27 年 6 月 17 日（金） 13：30～14：40 本校 5 階バンケットルーム

●学校関係者評価委員

【委員氏名】

狩野 桜子 卒業生代表 アルタビスタガーデン所属
 橋本 桂子 保護者代表
 真板 竜太郎 高校関係者 木更津総合高等学校学校長
 沼倉 英里 近隣関係者 行船管理有限会社取締役社長
 勇 茂樹 業界代表 一般財団法人 日本ホテル教育センター ※

※大堀 貴弘委員より委任を受け出席

田村 功治 業界代表 東京ベイ舞浜ホテル
 クラブリゾートマーケティング&セールス部宴会予約課 課長

【学校側参加者】

土田 雅彦 専門学校東京ウェディングカレッジ 学校長
 小川 昭久 専門学校東京ウェディングカレッジ 事務局次長
 菅野 悠 専門学校東京ウェディングカレッジ 事務部長代理
 丸山 敏夫 専門学校東京ウェディングカレッジ 教務部長

(学校関係者評価委員の評価および意見)

点検・評価項目	評価委員からの評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	評価委員よりの御意見
1 教育理念 目的・育成人材像	3.0	学校法人滋慶学園としての建学の理念である①実学教育②人間教育③国際教育の柱が開学以来、一貫して貫かれていることが大きなバックボーンとなっている。それに加えてに 4 つの信頼という視点により、東京ウェディングカレッジのミッションや存在意義がより明確にされており、現在のみならず未来にわたっての永続的な教育活動が大いに期待できる。
2 学校運営	3.0	学校法人として教育理念に基づいた運営方針や事業計画を明文化することで明確にし、それを関係者全員に共感してもらうレベルまで周知徹底させることを重視していることは大いに評価できる。また意思決定システムも明確であるため、教育方針は現場に十分に浸透し、同時に現場からの意見や社会のニーズを適切に汲み取ることも徹底できていると思われる。人事評価について、数字だけでは評価できない業務について、過程を重視する「プロセス評価」という観点は、他の業界においても大いに参考となるも

		のである。
3 教育活動	2.8	<p>卒業後 3～5 年後の人物像を養成目的として明確にし、それを思い描いた上での卒業時と到達点として教育目標がしっかりと定められている。またそれが学生便覧に明示され、オリエンテーションなどでもしっかりと説明されていることで、学生の意識統一が期待できる。さらには学年目標や学期目標までもが定められ、そこからシラバスやコマシラバスまで繋がっていくところは、学生の 2 年間という限られた貴重な 1 日 1 日を無駄にすることなく教育活動が展開されているとに確信を持った。中でも、現場実習に力を入れ、他校では類を見ない時間を確保していることは、貴学の存在価値をさらに高めている。</p> <p>ブライダルのトレンドは変化が激しく教職員の方々のスキルを常に高い状態に保つ事は大変難しいと思うが、グループ校と情報交換や関係の深いホテルや専門式場などとの意見交換会などを定期的で開催して新しいトレンドに関する情報を入手する事も一つの手段であると考える。</p>
4 学修成果	2.3	<p>就職実績について、第一期生が就職内定率 100%を達成したことは素晴らしい成果だと思われる。さらには 30 名の内 28 名がウェディングの専門職への就職を果たしたことは、貴学の社会的使命を達成できたと評価でき、卒業生数が増加する二期生以降に更なる真価が問われる。</p> <p>ただしその中間評価である資格取得に関しては、合格率が全国平均を上回るものがある一方で、その半分にも満たないものがあることは、今後の改善すべき課題である。</p>
5 学生支援	2.2	<p>退学者数に関して、平成 26 年度と比較すると大きな改善がみられる。前年度の反省を生かし、学習面と生活面の双方からの対策が効果をあげていると思われる。中でも「JTSC」という法人全体規模の体制が有効に機能しているようで、多方面からの学生への支援が期待できる。</p> <p>ただし目標値の達成はならなかったため、今後も具体的な対策を計画実践していく必要がある。</p>
6 教育環境	2.8	<p>施設設備について、清潔かつ機能的であり、学生が快適な学習および実習に取り組むことができる。特に実習室に関しては、極めて現場での実践に近いレベルでの高度な実習が実施できると思われる。さらにそれに満足することなく、さらなるブライダル専用施設の拡大のために、新校舎を建設計画を進めているとのことで、教育面のみならず、生徒募集の観点からも更なる発展が期待できる。</p>
7 学生の募集と受け入れ	3.0	<p>一期生に比べて、二期生以降は確実に入学者数を増やしている。高等学校等へ適切な情報を伝達しており、また個々人が必要としている情報を学校案内パンフレットやホームページ上で適正に公開しており、高校生が安心して受験できる状態になっている。オープンキャンパスも適切な時期に、適切な回数、適切な内容で実施されており、参加した高校生の受験から入学へ確実に繋がっている。</p>
8 財務	2.8	<p>適切な収支予算を立て、綿密なチェックも行われている。月単位での確認に基づいた見直しも随時おこなわれているとのことで、安定した財務状況が維持できると考えられる。</p>

9 法令等の遵守	3.0	法令等の遵守については、専門の部署や係を設けており、適切に行われている。
10 社会貢献	2.8	26年度は1件だったカレッジ婚が、27年度にも1件実施したとのことで、次年度以降も可能な限り多数実施していくことが望ましい。学生にとってはこれ以上ない実践練習の機会であり、社会貢献としてのクオリティの高いイベントである。 学生のボランティア活動については、学生の視野を広げる意味でも、ウェディング業界以外での活動への参加も推奨してはどうかと思う。

(学校関係者評価の活用について)

本校の教育理念や養成目的・教育目標については評価委員から高い評価を受けており、教育活動・学生支援についても概ね良い評価を得ている。

前年度より引き続き課題となっている資格検定試験の実績については、入学時に2年間の学習ロードマップを提示し、2年間の流れを明示することによって、自身がどの地点にいて資格取得の意義はどのような事なのかを確認できるようにすることを決定した。

流行の移り変わりの早いブライダル業界のトレンドを学び続ける必要についても、強く痛感し、現在も業界スピーカーを招いての教職員研修を実施しているが、次年度は年間計画を立て継続的に取り組んでいくことを決定した。

(次回日程)

平成29年6月中に実施

以上